

1. 教育の責任

ドイツ語 I (春学期、1 単位) 3 クラス

ドイツ語 II (秋学期、1 単位) 1 クラス

「ドイツ語 I・II」の継続学習を通じて異文化理解の基礎となるドイツ語のしくみを理解し、言語構造を分析する力、それを基礎に論理的にドイツ語文を組み立てる力を養い、最終的にはドイツ語によるコミュニケーション力を高めることをめざす。こういった学修過程を通じて、現地の人々の言語習慣を理解し、母語が通じない環境に置かれた際の一定の対応能力を身に付ける。

2. 教育の理念

多様な文化、風土、そしてそこに暮らす人々を理解し受容できるように、母語以外の言語に触れ、その言語による世界の切り取り方、整理の仕方、表現方法等を学ぶ。そしてその学びを通じて、母語による社会の認識とは異なる考え方をする人々が世界には存在することを認識し、多様な考えを持つ他者と協働して生きる姿勢を身に付ける。

3. 教育の方法

言語を文化的事象と捉え、ドイツ語初級段階での様々な語彙、発音、表現方法等を学びながら、ドイツ語という基礎の上に構築された異文化としてのドイツ語圏文化を理解するための基礎教養を修得する。また、できるだけ双方向型の対話を基本とし、受講生の反応、理解度に応じた進度、レベルの調整を行いながら授業を進める。

また授業に際しては、初めて学ぶ表現方法の基本的枠組みを提示し、まずは未知のドイツ語文について受講者各自が辞書等を用いてその意味を調べ、そこからドイツ語文特有の規則性を見出すよう誘導する。その後、詳細な文法規則を提示し文法の必要性を認識させる。新しい文章表現を学んだ後、ただちに当該の要点を考えて文を作るミニテストを行い、その場で知識の確認、定着を図る。言語は本来音声であるため、正確な発音を聞き、また発声を試みながら、ドイツ語の音声と意味の関連付けができるように反復練習を行う。また授業中に学習した部分の内容について、自分なりの理解を自分の言葉で解説するレポート課題を課す。その際、授業中の学習内容の範囲内にとどまらず、関連する語彙、言語表現等へと関心を広げて調べる自主的な発展的学習の記録も記すよう指導。綴りを覚えるため、記入は原則的に手書きとしている。

4. 教育の成果

2025 年度授業アンケートによる評価 (ドイツ語 I [3 クラス分]) では、評価項目の「適切な教材提示」が 3.36~3.88、「有用な知識・情報の修得」が 3.50~3.63、「教員の熱意」が 3.64~3.88、「さらなる勉強意欲の喚起」が 3.29~3.38 という数値が見られ、3 クラスそれぞれのクラスによりある程度の差はあるが今年度もまずまずの値が出ている。また「授業の全体的評価」でも 3.31~3.88 となっているため、一定の教育成果があったものと思われる。なお同じ内容、方法の授業を行っても受講者による理解力、意欲の差がクラス、年度により異なるため、履修者の理解度、関心、興味等の変化を細かく見極めながら授業の進め方を調整したい。

5. 改善への努力と今後の目標

語学の場合まずは発音が基礎となるため、声を出させる機会を増やす。またドイツ語は初習語学のため新しい知識の伝達量がどうしても多くなるが、対面では週一回の授業でしか触れる機会がないという制約があるため、現状の中でできるだけドイツ語を使用する反復練習量を増やして受講生にドイツ語を作文し発言する機会をより多く与え、ドイツ語に慣れてもらえるよう努力したい。また、実際のドイツでの生活事情を伝える映像、音声等をさらに活用し、ドイツ語学修の意欲を少しでも高めたい。

今後 ChatGPT などの AI 技術が急速に進展することで、実用的な外国語学修の必要性、目的、意義が変容する可能性が大きい。ため、何のために語学を学ぶのか、という学習の根本的な動機付けを再検討する。

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：国際日本学部 名前：大島 浩英 作成日：2026年1月31日

【添付資料】

使用教科書：ドイツ語標準発音をネイティブ話者が録音した CD、ドイツ文化を伝える DVD 等が付属されたテキスト

配付資料：

- ・ドイツ語人称変化 練習問題プリント
- ・ドイツ語の冠詞 練習問題プリント
- ・所有冠詞、人称代名詞 練習問題プリント
- ・单元ごとの小テストプリント
- ・各文法項目ごとのミニテスト